

保育学生による地域子育て支援の取り組み —2019年度活動報告—

**A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School: A Report of the Activity 2019**

土 田 耕 司 ・ 鎌 田 雅 史
小 谷 彰 吾 ・ 荊 木 まき子
ズビャーギナ章子 ・ 松 本 希
柴 川 敏 之 ・ 池 田 明 子
秋 山 真理子 ・ 澤 津 まり子

保育学生による地域子育て支援の取り組み

—2019年度活動報告—

A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School: A Report of the Activity 2019

土田 耕 司 (幼児教育学科)・鎌田 雅 史 (幼児教育学科)

TODA Koji

KAMADA Masafumi

小谷 彰 吾 (幼児教育学科)・荊木 まき子 (幼児教育学科)

KOTANI Shogo

IBARAKI Makiko

ズビャーギナ章子 (幼児教育学科)・松本 希 (幼児教育学科)

ZVYAGINA Akiko

MATSUMOTO Nozomi

柴川 敏之 (幼児教育学科)・池田 明子 (幼児教育学科)

SHIBAKAWA Toshiyuki

IKEDA Akiko

秋山 真理子 (幼児教育学科)・澤津 まり子 (幼児教育学科)

AKIYAMA Mariko

SAWAZU Mariko

本学幼児教育学科では、子育て支援を目的とした学生ボランティアグループGBA（ぐば：Girls and Boys Be Ambitious の略、以降GBAと記す）を結成し、2019年度で14年目を迎えた。このGBAの主な活動は、「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」(以下では「就実やんちゃキッズ」と記す)の開催であり、過去13年間の取り組みについては既に報告済みである^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13)}。

昨年度の報告から、①全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり、②学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化、③持続的発展にむけた引継ぎ体制の強化の3点が今後の課題として挙げられた。

第一の課題である「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり」については、継続的な課題として例年改善を試みている。さらに、『地域の子育て支援』という活動目的の原点に立ち、継続してすべての引率者が子どもと一緒に安心して参加しやすい環境づくりに力を入れている。

第二の課題である「参加学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化」については、就実やんちゃキッズを主催する有志の学生団体であるGBAと、中・四国保育学生研究大会の学生グループ(ちゅうし：以降、中四と記す)が参加しており、参加学生は年々増加している。参加学生の増加に伴い、活動に対する学生間の温度差が見られるようになってきた。そこで、参加学生の主体性を尊重しながら活動をさらに充実させる方向性を模索する必要性

が求められる。

第三の課題である「持続的発展にむけた引継ぎ体制の強化」については、短期大学である本学は学生の卒業までの期間が2年間と短く、また実習や就職活動等により2年生は十分に活動に関わることが難しいことから、今回はこれまでの活動内容を定着させ、後輩に効果的に引き継いでいく時間的な余裕が確保できないことが問題視されてきた。この点に関して、円滑な引継ぎが可能な方法を検討することが求められる。

本報告は、上記のような課題解決を念頭において2019年度の地域子育て支援「就実やんちゃキッズ」の取り組みについて、経過及び結果をまとめたものである。

1 「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」

1) 活動内容

「就実やんちゃキッズ」とは、幼児教育学科の学生が結成したG B Aおよび中四の学生有志が中心となり開催している子育て支援イベントのことであり、地域貢献の一環として活動している。本年度も、就学前の子どもとその保護者を対象に、本学の体育館アリーナで年間4回、土曜日の午前中（9：30開場、10：00～11：30開演）に開催した。

就実やんちゃキッズのプログラムは前半と後半に分かれており、プログラム前半は、パネルシアター・リズム体操・オペレッタ・手遊び等の公演を行い、プログラム後半は様々な遊びをおこなうことのできる「交流広場」を展開している。具体的な活動の様子については（図1）を、具体的な公演演目や参加人数については（表1）に示す。



パネルシアター



リズム体操



オペレッタ



手遊び



交流広場（新聞シャワー）



交流広場（ダンボールハウス）

図1 就実やんちゃキッズのプログラム

表1 就実やんちゃキッズ活動内容

日 時	公 演 演 目	参加人数	学生数
第1回 4月27日	パネルシアター 「キャベツの中からあおむしでたよ」 リズム体操 「シェイクシェイクげんき」 オペレッタ 「おおきなかぶ」 * 幕間に手遊び、公演後「交流広場」※	大人 148人 子ども 157人	115人
第2回 6月22日	パネルシアター 「おもちゃのチャチャチャ」 リズム体操 「ばわわぶたいそう」 オペレッタ 「オオカミと7匹の子ヤギ」 * 幕間に手遊び、公演後「交流広場」	大人 301人 子ども 330人	128人
第3回 11月16日	パネルシアター 「おばけなんてないさ」 リズム体操 「パブリカ」 オペレッタ 「いただきます」と「ごちそうさま」は何のため？ ～食べ物たちの声を聞いてみよう～ * 幕間に手遊び、公演後「交流広場」	大人 150人 子ども 169人	82人
第4回 1月25日	パネルシアター オニのパンツ リズム体操 かえるのたいそう オペレッタ 桃太郎 * 幕間に手遊び、公演後「交流広場」	大人 239人 子ども 273人	112人

※「交流広場」では、新聞シャワー、身長・体重測定コーナー、伝承あそび、ダンボールハウス、お絵描き、手作りおもちゃなどを実施。

2) 課題の達成状況

i) 全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり

就実やんちゃキッズの活動目的は、「地域の子育て支援」である。発足以降、継続的に来場者にとって安全で安心して過ごすことのできる環境づくりに取り組んできた。近年は、来場者の増加にともない駐車場、会場案内の難しさ、イベント中の受付業務の混雑等に関しての運営活動の周辺環境に関する課題が少なからず取り上げられている。

昨年度までの取り組みとして、①案内スタッフを増員し、案内板等の掲示を有効に活用することによる、駐車場の確保と駐車場から会場までのスムーズな誘導を試みた。②混雑する受付周りの改善として、受付周りを整理し充実を図った(図2-①)。③交流広場の安全の確保や危機管理として、乳児コーナーを設置した(図2-②)。④衛生面での改善として来場者の入館時の手指のアルコール消毒が挙げられる(図2-③)。これらについては、本年度も継続的に取り組んでいる。

特に、本年度は受付周りの混雑に対して更に改善を試みた。受付と、ベンチを隣接させ配置することで、来場者の休憩スペースを設けながら、運営用のスペースを区切り、空間の有効活用が実施された。また、来場者の靴置き場に養生テープを用いてラインを引き、視覚的に整列の仕方が分かるように工夫した。更に、受付をしているホールは、階段に隣接するため、手すりの隙間にビニールテープを編み込むなどして落下事故の予防の安全対策につとめている。その他にも、授乳室やオムツ替えコーナー、手洗い場所などを来場者に分かりやすくするために、ラミネートした案内を掲示したり、床に養生テープで矢印を施したりと環境構成に取り組んでいる。学生たちは毎回のイベント終了後に、振り返り会を開催し各自が気づいたことを話し合い、その都度、活動の振り返りをし課題の改善についての話し合いを行っ

ている(図2-④)。

また、本年度より安全面だけでなく、楽しさを感じる空間づくりが来場者の安心につながると考え、入り口にガーランドを取り付け(図2-⑤)、体育館内に折り紙を使った壁面構成を行うなどして(図2-⑥)、ワクワクするような空間づくりに取り組んでいる。



図2 安心して参加できる安全な運営をめざして

ii) 学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化

本活動において、原則として教員は、学生を支援する助言者として関わっており、最終的には学生たちによる決定事項が尊重されるように配慮している。G B Aは有志の学生の任意団体であるという理念があり、当日の運営など主要な活動(プログラム作成や練習、準備、リハーサル、当日の運営)に関しては学生が主体的に担っている。

また、G B Aの活動を安定的に継続するために、会計業務や、保険への加入、他部局との折衝や調整、広報活動、岡山市、岡山県教育委員会および岡山県からの後援等に伴う事務作業については教員が担当している。

毎回の活動では、就実やんちゃキッズの12日前(前週の月曜)までに、公演のパートリーダーの学生が中心となって演目を決定し、教員に知らせる。教員は、学生からの連絡に基づき、関係部局に広報を依頼し本学科のHPにおいて告知を行っている。

イベントのある週の火曜日には、18時から、会場となる本学の体育館アリーナでリハーサルと当日に向けたミーティングを開いている。リハーサルや、ミーティングの進行については、G B Aのリーダーが司会を務め進行する。学科の教員は他の業務等に支障をきたさない範囲において参加し、公演における表現やプログラム後半の交流広場における安全管理等について適宜助言をしている。また、就実やんちゃキッズと学内の他部局のイベント等との調

整等が必要な場合は担当教員が行い、連絡事項としてミーティング時において報告している。

G B Aの参加学生は、年々増加しており、有志の活動であるにもかかわらず、本年度では幼児教育学科全体の81.7%の学生（1年生76名、2年生81名）が加入している。従来は、Aチーム、Bチームという2つのチームからリーダーを選出することで運営してきたが、人員の増加に伴い昨年度から、10クラスごとにリーダー（連絡係）を配置する体制を始めた。しかし連絡係の役割について、まだ十分に浸透しておらず、本年度は当日の出席確認や簡単な事務連絡に留まっており、今後も活動の安定化に向けた話し合いや取り組みを継続する必要性が認められる。

iii) 持続的発展にむけた引継ぎ体制の強化

幼児教育学科の2年生は、6月頃から保育・教育・施設実習準備が本格化し学業が忙しくなるため、1年生に活動の引継ぎを十分に行うことが難しく、活動を維持するためには学科の教員によるサポートが欠かせないのが現状である。しかし、可能な限り学生を通じての引継ぎに基づく運営体制づくりを進めている。

そこで考えられる2年生による引継ぎが難しい理由としては、スケジュールの慌ただしさにある。実質的に、4月の就実やんちゃキッズは、1年生メンバーが未確定な状態で始まるため、2年生が1年生に引継ぎを行うことができるタイミングは、2年生の保育・教育・施設実習の始まる前の6月のみである。また、11月、1月の就実やんちゃキッズは、1年生が中心となり2年生はサポートする体制に変わるが、2年生は就職活動等で多忙となり出席することが困難となるメンバーも増えているのが現状である。

そこで、本年度は、G B Aのリーダーと教員が話し合い、就実やんちゃキッズのさまざまな係（準備や、交通案内、受付、交流広場でのコーナー）を見直し、各係のメンバーを通年で固定することで、引継ぎが行いやすくなるように試みている。また、本年度からは1年生に9月の段階で事前に、本年度の第三回目の就実やんちゃキッズ（11月）と、第四回目の就実やんちゃキッズ（1月）と、翌年度の第一回目のやんちゃキッズ、第二回目の就実やんちゃキッズの演目のパートリーダーを話し合いにより決めることで、参加学生の時期的な見通しを持って年度を越えた活動がきるように工夫した。

さらに、9月の1年生のみの全体会議で全員が何かの演目には参加して、舞台上に立つように配役をするという案が学生間で出され了承されている。このことに関しての効果は今後の成果を待ちたい。

2 アンケートの方法及び結果

就実やんちゃキッズでは、活動をよりよいものにしていくために継続して保護者と学生を対象としたアンケート調査を行っている。回収したアンケート票については、匿名化された状態で、適宜メンバーが閲覧可能なようにG B Aの控室に保管するようにしている。以下に

本年度、4月・6月の就実やんちゃキッズにおけるアンケート結果の概要を示す（表2）。

1) 参加者保護者へのアンケートの方法

参加者保護者へのアンケートの方法は、無記名の質問用紙を受付で配布し、終了時に回収する。アンケートの内容は、①就実やんちゃキッズの参加回数、②子どもの年齢、③子どもとの続柄、④就実やんちゃキッズのプログラムの内容に関する意見、⑤今後の参加意思、⑥就実やんちゃキッズをどのように知ったか、以上の6点についてである。

2) 参加保護者へのアンケート結果

以下の結果は、今年度の4月27日及び6月22日に開催された就実やんちゃキッズで得られたデータに基づくものである。回収されたアンケートの総数は253件であった。

i. 就実やんちゃキッズの参加回数

就実やんちゃキッズに参加した世帯ごとに、今回の参加が何度目か尋ねた結果を（表2）に示す。4月における2回以上の参加者、6月における3回以上の参加者は、昨年度以前にも継続的に参加している参加者であり、全体の23名（20.72%）の方が該当した。また、 χ^2 検定の結果、4月と6月の両月のリピーターの比率に違いは認められず、毎回約半数が初参加者であることが窺える（ $\chi^2(3) = x2(3) = 1.04, ns$ ）。

表2 就実やんちゃキッズ参加世帯の参加回数

	4月	6月
初参加	57	67
2回目	23	24
3回以上	31	46
無回答	0	5

ii. 参加人数の推移

就実やんちゃキッズが年4回の実施体制となった2016年からの、4年間にわたる月ごとの参加者の推移を（図3）に示す。学内施設の調整等の理由により、今年度の第一回目が4月開催であったためか例年より参加人数が少なめであった。しかし、その反動なのか6月の第二回目の来場者は631名と4月の第一回目の約2倍近くの参加者となっている。

就実やんちゃキッズを知った手段については、情報源として最も多かったのは、昨年度と同様にホームページ（23.72%）であった（表3）。ホームページを定期的に更新し、常に新しい情報を提供するように務めていることで効果があったのではないかと考えられる。

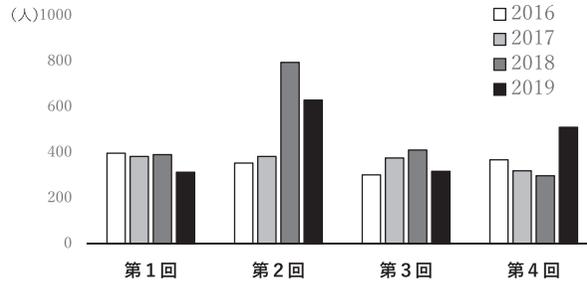


図3 就実やんちゃキッズの参加者の年次推移

表3 就実やんちゃキッズをどのように知ったかについて

	ホームページ	ポスター	チラシ	新聞	知人	就実の関係者	その他
人数(人)	60	57	39	3	35	31	13
割合(%)	23.72	22.53	15.42	1.19	13.83	12.25	5.14

iii. アンケートの記入者と子どもの関係

アンケート記入者と子どもの関係について(表4)に示す。引率者の多くは母親であり(74.25%)、次いで父親(21.07%)、祖母(3.01%)の順の参加が多かった。アンケート記入者のうち、夫婦で一緒に回答しているケースが42件(アンケート253件のうち16.60%)あり、父もしくは母と一緒に祖父母が回答しているケースが3件で(アンケート253件のうち1.19%)であった。

表4 引率者の割合

	人数(人)	割合(%)
母	222	74.25
父	63	21.07
祖母	9	3.01
祖父	3	1.00
その他	2	0.67
保護者合計	299	100.00

iv. 子どもの参加人数と年齢について

1世帯辺りの子どもの参加人数は、全世帯253件のうち、56.13%(142件)が1人、39.13%(99件)が2人、1.98%(5件)が3人以上であった。子どもの総数は354人となっており、年齢の分布は(表5)の通りである。全体的に、3歳未満の子どもが193名(54.52%)と過半数であった。幅広い年齢層の子どもたちに対応する必要性が認められる。

表5 参加した子どもの年齢

	人数(人)	割合(%)
1歳未満	46	12.99
1歳以上 2歳未満	69	19.49
2歳以上 3歳未満	78	22.03
3歳以上 4歳未満	70	19.77
4歳以上 5歳未満	49	13.84
5歳以上 6歳未満	34	9.60
6歳以上	8	2.26
合計	354	100.00

v. プログラムについて

①全体の時間

就実やんちゃキッズは、90分間のプログラムで開催している。プログラムの長さについて、参加者の印象を（図4）に示す。参加者の80.24%がちょうど良いと答えており、プログラムの長さは適切であることが認められる。

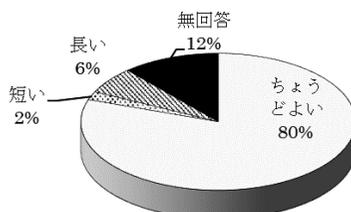


図4 プログラムの長さ

②特に良かったと思うプログラム

アンケートでは、良かったと思うプログラムについて、保護者と子どもに回答を求めた（複数回答可）。保護者と子どもが選んだプログラムを（表6）に示す。昨年に引き続き、保護者も子どもも、交流広場を良かったとする割合が最も多かった。また、2番目に多かったのが保護者はオペレッタ、子どもはリズム体操であった。

表6 特に良かったと思うプログラム

	手遊び	パネルシアター	リズム体操	オペレッタ	身体測定	交流広場	その他
保護者による選択数	90	66	85	91	21	141	0
(%)	35.57	26.09	33.60	35.97	8.30	55.73	0.00
子どもによる選択数	40	31	54	51	12	143	2
(%)	15.81	12.25	21.34	20.16	4.74	56.52	0.79

vi. 今後の就実やんちゃキッズへの参加意思

保護者に対して「次日も参加したいと思いますか?」と尋ねた結果、200名（79%）の参加者が「思う」と回答し、「思わない」と回答した参加者はいなかった（図5）。

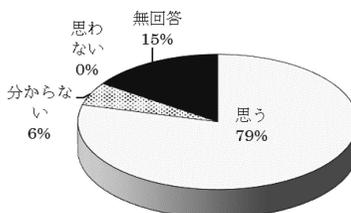


図5 今後の参加意思

3) 学生の振り返りのためのアンケートの方法

学生自身が活動を振り返り、さらに問題点を抽出し次回以降の就実やんちゃキッズに活かすことを目的にアンケート調査を実施している。実施方法は、就実やんちゃキッズ終了後の反省会の時間に、学生にアンケート用紙を配布しアンケートの記入を回収した。

質問紙の内容は(表7)のように、①公演について振り返り(11項目)、②交流広場(子どもとのふれあい)に関する振り返り(10項目)、③全体に関する満足度の振り返り(2項目)の23の振り返り項目から構成されている。各項目について「あてはまる(5点)」「少しあてはまる(4点)」「どちらでもない(3点)」「ややあてはまらない(2点)」「あてはまらない(1点)」の5件法にて回答を求めている。加えて、公演と交流広場での活動それぞれに関し、学生がどのような課題を意識するようになったかについて自由記述による回答を求めた。各回でアンケートに回答した学生数は、4月(115名)、6月(128名)であった。

4) 学生へのアンケートの結果について

i. 調査項目の記述統計量

アンケートの各項目に関する、平均値、標準偏差、1変量の t 検定における95%信頼区間について(表7)に示す。学生へのアンケートの結果から、学生が楽しみながら積極的に子育て支援ボランティアの活動を行っていたことが顕著に窺える。

全体平均の95%信頼区間の下限の推定値が「4:少し当てはまる」に満たない項目については、今年度の学生の課題として捉えることができる。今年度の学生スタッフは、公演に関しては、「事前準備・練習がよくできた。」「人前で演技することが上手になった。」「自分自身で創意工夫した」といった項目において特に課題を感じていた。本年度は、学内のスケジュール調整が難しく、4月の就実やんちゃキッズは研修旅行の準備と並行して実施せざるを得なかった。また、GBAや中四の所属の参加学生数が増加し、なかなか活躍する機会が得られなく人任せになってしまう学生の割合が増えていることも危惧される。

また、交流広場については、「保護者・高齢者と積極的に交流できた。」「遊びのレパートリーが増えた。」「自分に自信がもてるようになった。」「他人の立場や気持ちを読み取れるようになった。」などに課題を感じていた。さらに、子どもはもちろん、保護者や地域の方に積極的に参加を呼び掛けるとともに、参加者と活発なコミュニケーションを図っていくことも今後の課題となるだろう。

表7 調査項目の記述統計及び一変量のt検定における95%信頼区間の推定

	有効 N	平均値	標準偏差	標準誤差	95%信頼区間	
					下限	上限
公演について						
事前準備・練習がよくなった。	220	4.14	1.10	0.07	3.99	4.28
保育に関する技術が身についた。	226	4.29	0.77	0.05	4.19	4.39
人前で演技することが上手になった。	212	3.48	1.17	0.08	3.32	3.64
意識して笑顔ができた。	223	4.62	0.67	0.04	4.53	4.71
積極的に活動できた。	222	4.38	0.79	0.05	4.28	4.49
みんなと協力することができた。	223	4.57	0.72	0.05	4.48	4.67
臨機応変に行動することができた。	223	4.28	0.80	0.05	4.17	4.38
自分自身で創意工夫した。	222	3.91	0.97	0.06	3.78	4.03
自分の役割がきちんと果たせた。	221	4.30	0.93	0.06	4.18	4.43
新たな課題が見つかった。	214	3.87	1.17	0.08	3.72	4.03
交流広場について						
子どもと積極的に交流できた	236	4.53	0.70	0.05	4.44	4.62
保護者・高齢者と積極的に交流できた。	236	3.76	1.07	0.07	3.63	3.90
遊びのレパートリーが増えた。	235	3.91	0.94	0.06	3.79	4.03
自分も楽しく参加できた。	236	4.61	0.71	0.05	4.51	4.70
自分に自信がもてるようになった。	234	4.00	0.90	0.06	3.89	4.12
他人の立場や気持ちを読み取れるようになった。	235	4.06	0.83	0.05	3.95	4.17
子どもについての理解が深まった。	235	4.25	0.78	0.05	4.15	4.35
子育て支援への理解が深まった。	233	4.23	0.83	0.05	4.12	4.34
新たな課題が見つかった。	222	3.78	1.21	0.08	3.62	3.94
全体的な満足度						
全体的に今日の活動に満足できた。	223	4.52	0.73	0.05	4.43	4.62

3 おわりに

本年度をもってG B Aの活動は14年目となり、就実やんちゃキッズの活動は12年目を迎えた。本年度の活動は、一昨年度の就実やんちゃキッズの抜本的な見直しを引き継ぐ形で取り組んだ。今まで以上に、より地域に貢献し、学生にとっても意義ある活動となるように努めなければならない。そこで、以下の3点を次年度以降の取り組むべき課題として挙げる。

第一に挙げられるのは、前年度からの継続課題でもある、全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくりである。本活動は地域の子育て支援を目的としているため、安心して参加でき楽しむことのできる空間づくりは最も重要な課題である。そこで、昨年度から受付周りの安全性の向上や合理化に取り組んでいる。しかし、依然として改善をしなければならない課題は少なくなく、これからもこのことに関しては継続的な配慮に努めていきたい。さらに、来年度は本学キャンパスの新館立替工事が本格化するため、来場者への会場案内や周辺の誘導警備等で、今まで以上に安全面での対応が求められる。

第二の課題も同じく前年度から継続して、学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化を挙げる。参加する学生数の増加により組織全体の人的、時間的な対応等で運営管理面での課題が顕著化している。学科や教員による支援は不可欠であるが、本来の運営体制の目的でもある学生の主体性を尊重する体制を維持していくための対策が肝要である。そのためには、学生の主体性を維持するための意見交換の機会として、学生との話し合いを継続し方

向性を模索する必要性が強く認められる。

第三の課題は、公演内容の充実である。近年では、常に前に出て発表を行う参加学生に偏りが見られ、取り組みに対する温度差が見られる。また、失敗しない方向に台本や脚本が書かれることで、授業で学んだ新しい技法や音楽表現、自分たちの新しいアイデアを試すような挑戦的な試みがし難くなっているのが現状である。就実やんちゃキッズは、学生にとっては将来の保育者として、たくさん子どもや保護者の前で実践し、自分たちの力を試すことのできる貴重な機会でもあることから、学生がものおじせず向上心をもって挑戦できるような意識づけや、学生のチャレンジ精神を養えるような公演内容の充実が図られるような側面的に支援できる体制が求められる。

以上から、①全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり、②学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化、③公演内容の充実の3点を、次年度以降に取り組むべき課題として挙げることで、本年度の活動報告とする。

謝辞

2019年度の子育てボランティアグループGBA及び「就実やんちゃキッズ」の活動は、岡山県、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の後援を受け実施した。記して深謝致す次第である。

参考・引用文献

- 1) 村田恵子、澤津まり子、立石あつ子 (2006). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－備前地域子育てキャラバン事業報告－、就実論叢、36 (社会篇)、pp.135-152.
- 2) 澤津まり子、永田彰子、田中 誠、立石あつ子 (2007). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2007年度活動報告－、就実論叢、37 (社会篇)、pp.81-98.
- 3) 澤津まり子、堤幸一、立石あつ子、伊藤真、笹倉千佳弘、田中誠、永田彰子、山根薫子、Z. 山田章子 (2008). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2008年度活動報告－、就実論叢、38 (社会篇)、pp.285-298.
- 4) 澤津まり子、伊藤真、堤 幸一、立石あつ子、笹倉千佳弘、Z. 山田章子、田中誠、山根薫子 (2009). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2009年度活動報告－、就実論叢、39、pp.233-247.
- 5) 澤津まり子、立石あつ子、柴川敏之、秋山真理子、堤幸一、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子 (2011). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2010年度活動報告－、就実論叢、40、pp.163-172.
- 6) 澤津まり子、柴川敏之、松本希、鎌田雅史、Z. 山田章子、秋山真理子、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子 (2012). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2011年度活動報告－、就実論叢、41、pp.175-186.

- 7) 松本希、柴川敏之、澤津まり子、鎌田雅史、田中誠、秋山真理子、Z. 山田章子、笹倉千佳弘、山根薫子 (2013). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2012年度活動報告一、就実論叢、42、pp.161-174.
- 8) 松本希、田中誠、澤津まり子、鎌田雅史、秋山真理子、笹倉千佳弘、柴川敏之、Z. 山田章子、山根薫子 (2014). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2013年度活動報告一、就実論叢、43、pp.325-336.
- 9) 田中誠、秋山真理子、鎌田雅史、蔵永瞳、澤津まり子、笹倉千佳弘、柴川敏之、Z. 山田章子、松本希、山根薫子 (2015). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2014年度活動報告一、就実論叢、44、pp.291-301.
- 10) 秋山真理子、鎌田雅史、柴川敏之、蔵永瞳、笹倉千佳弘、澤津まり子、Z. 山田章子、田中誠、山根薫子 (2016). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2015年度活動報告一、就実論叢、45、pp.209-223.
- 11) Z. 山田章子、鎌田雅史、松本希、伊藤優、荊木まき子、笹倉千佳弘、柴川敏之、秋山真理子、澤津まり子、田中誠 (2017). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2016年度活動報告一、就実論叢、46、pp.187-198.
- 12) Z. 山田章子、鎌田雅史、松本希、伊藤優、荊木まき子、笹倉千佳弘、柴川敏之、秋山真理子、澤津まり子、田中誠 (2018). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2017年度活動報告一、就実論叢、47、pp.199-210.
- 13) 荊木まき子、鎌田雅史、松本希、ズビャーギナ章子、小谷彰吾、土田耕司、伊藤優、秋山真理子、柴川敏之、澤津まり子 (2019). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2018年度活動報告一、就実論叢、48、pp.173-186.